

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）の火山活動解説資料

福岡管区気象台

地域火山監視・警報センター

鹿児島地方気象台

＜噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引上げ＞

えびの高原（硫黄山）周辺では、GNSS連続観測で硫黄山近傍の基線において、2023年5月頃から硫黄山の山体浅部における膨張を示すと考えられるわずかな伸びがみられています。そのなかで、硫黄山付近において、本日（7日）16時50分に火山性微動が発生しました。

火山活動が高まっていることから、本日17時15分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げました。

【防災上の警戒事項等】

硫黄山火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○ 活動概況（図1～5）

えびの高原（硫黄山）周辺では、GNSS連続観測で硫黄山近傍の基線において、2023年5月頃から硫黄山の山体浅部における膨張を示すと考えられるわずかな伸びがみられています。

そのなかで、硫黄山付近において、本日（7日）16時50分に火山性微動が発生しました。火山性微動が発生したのは、2018年6月19日以来です。

硫黄山付近の浅いところを震源とする火山性地震は5月上旬にやや多い状態となりましたが、6月以降は概ね少ない状態で経過しています。

このことから、火山活動が高まった状態となっていることから、7日17時15分に噴火警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げました。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

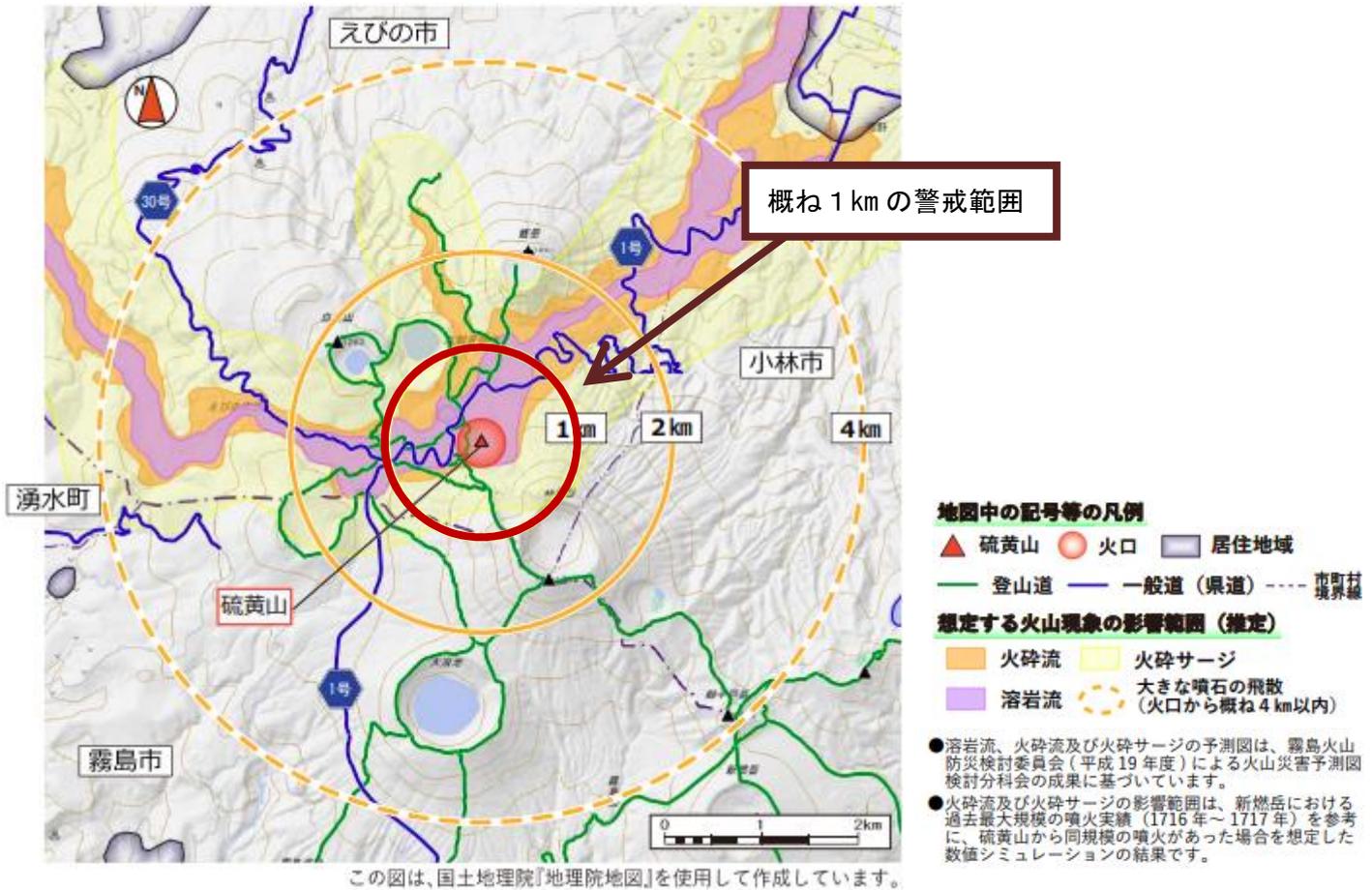
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、宮崎県及び鹿児島県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』及び『電子地形図（タイル）』を使用しています。



- 噴火警戒レベルに応じて、下記のような防災対応がとられています。
 - レベル5（避難）：危険な居住地域からの避難。
 - レベル4（高齢者等避難）：警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等。
 - レベル3（入山規制）：硫黄山から概ね2km以内への立入規制、火山活動の状況により概ね4km以内への立入規制。
 - レベル2（火口周辺規制）：硫黄山から概ね1km以内への立入規制。
* 県道1号線の一部通行止めや硫黄山から1km以内の登山道への立入規制
 - レベル1（活火山であることに留意）：状況に応じて火口内への立入規制等。

図1 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 警戒が必要な範囲

硫黄山火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

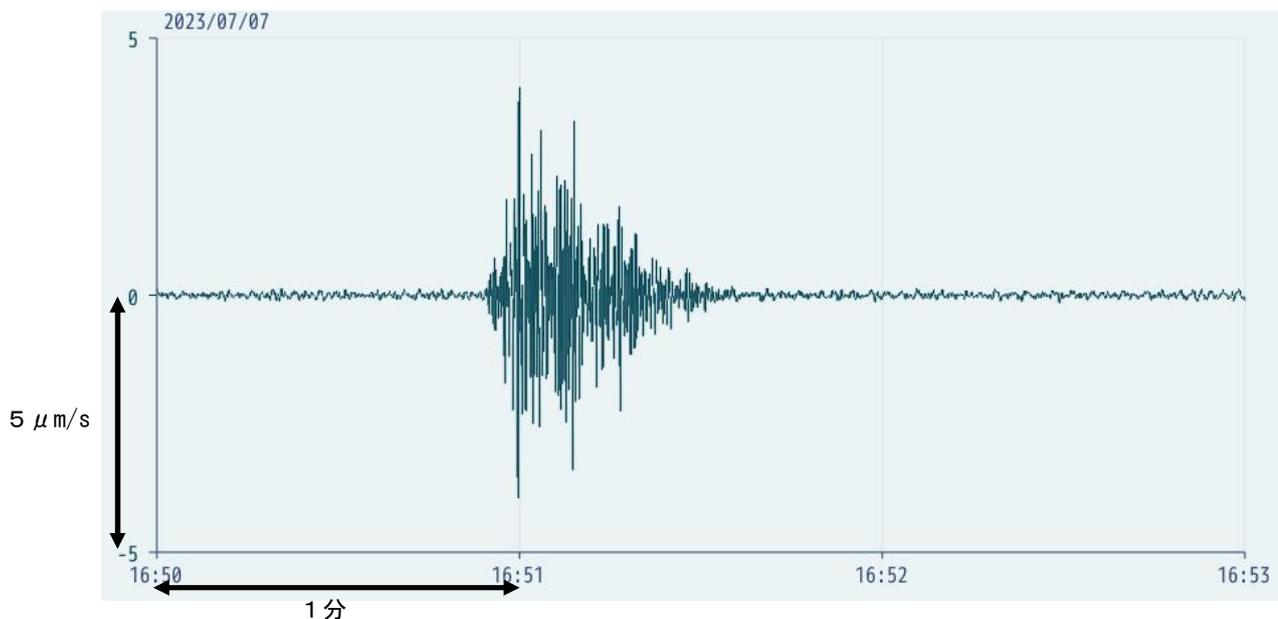


図2 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）7日16時50分に発生した火山性微動
（霧島韓国岳北東観測点上下動成分、16時50分～16時53分）

7日16時50分に硫黄山付近で火山性微動が発生しました。火山性微動が発生したのは2018年6月19日以来です。

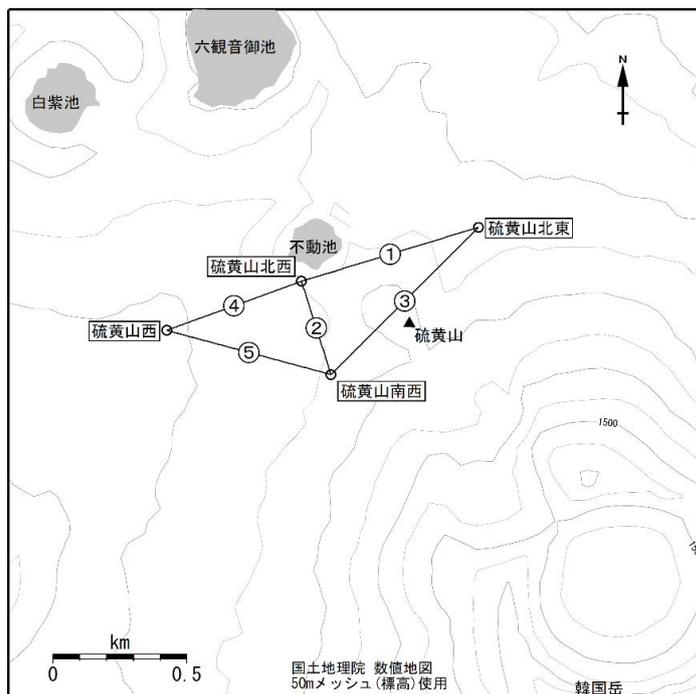


図3 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 図4及び図5のGNSS連続観測点と基線番号
小さな白丸（○）は気象庁の観測点位置を示しています。

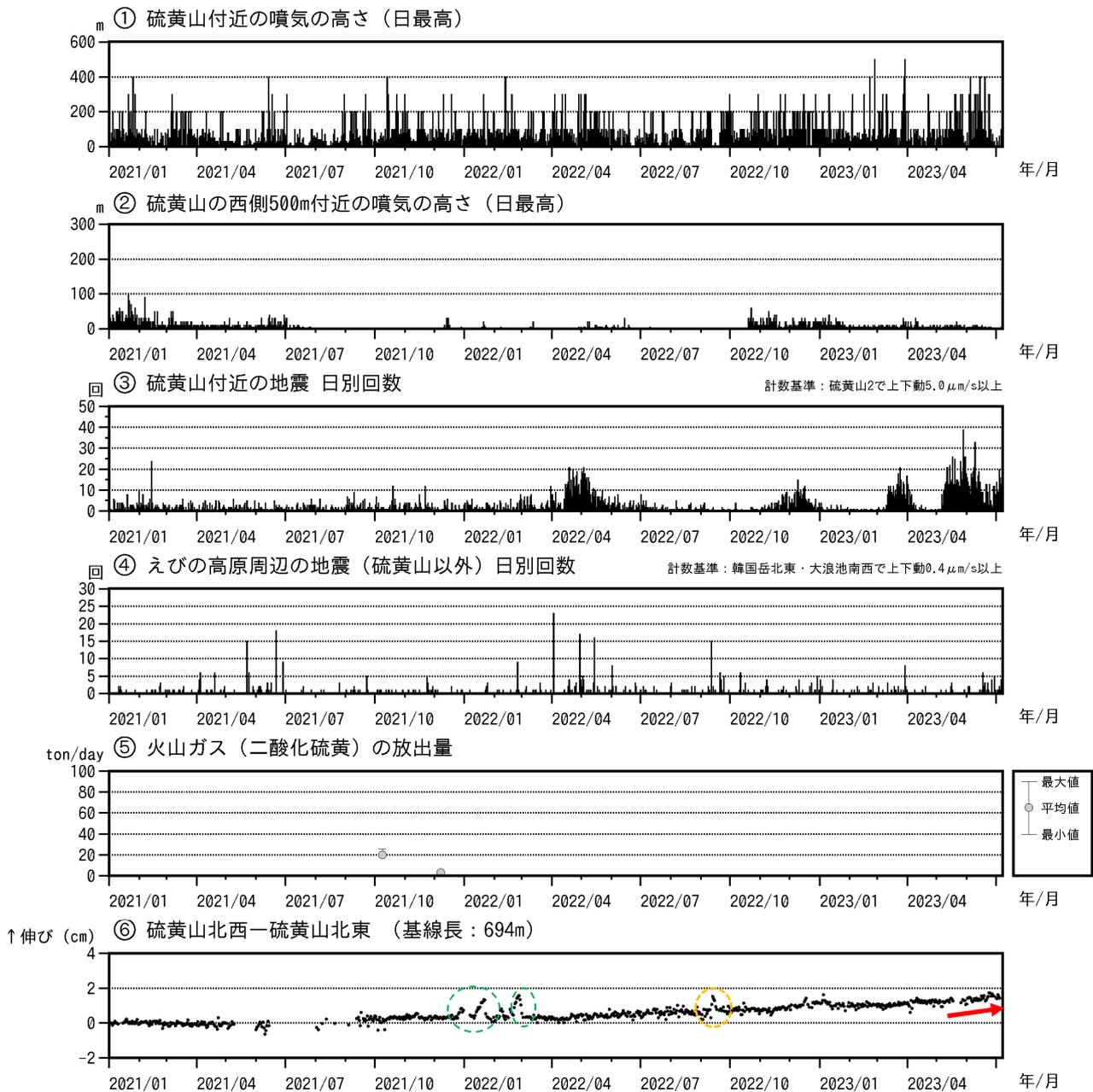


図4 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）火山活動経過図（2021年1月～2023年7月7日）

< 6月1日から7月7日までの状況 >

- ・監視カメラによる観測では、硫黄山の南側の噴気地帯で噴気が最高で400m以上に上がるなど、活発な噴気活動が続いています。硫黄山の西側500m付近の噴気地帯では、高さ10m以下の弱い噴気を時々観測しました。
- ・硫黄山付近の火山性地震は、5月上旬から増加しやや多い状態で経過していましたが、6月以降はやや減少し概ね少ない状態で経過しています。
- ・GNSS連続観測では、硫黄山近傍の基線において2023年5月頃から、硫黄山の山体浅部における膨張を示すと考えられるわずかな伸びがみられています（赤矢印）。

⑥の基線は図3の①に対応しています。

基線の空白部分は欠測を示しています。

⑥の緑色の破線内の変化は、地面の凍上の影響と考えられます。

⑥の橙色の破線内の変化は、台風等の気象要因と考えられます。

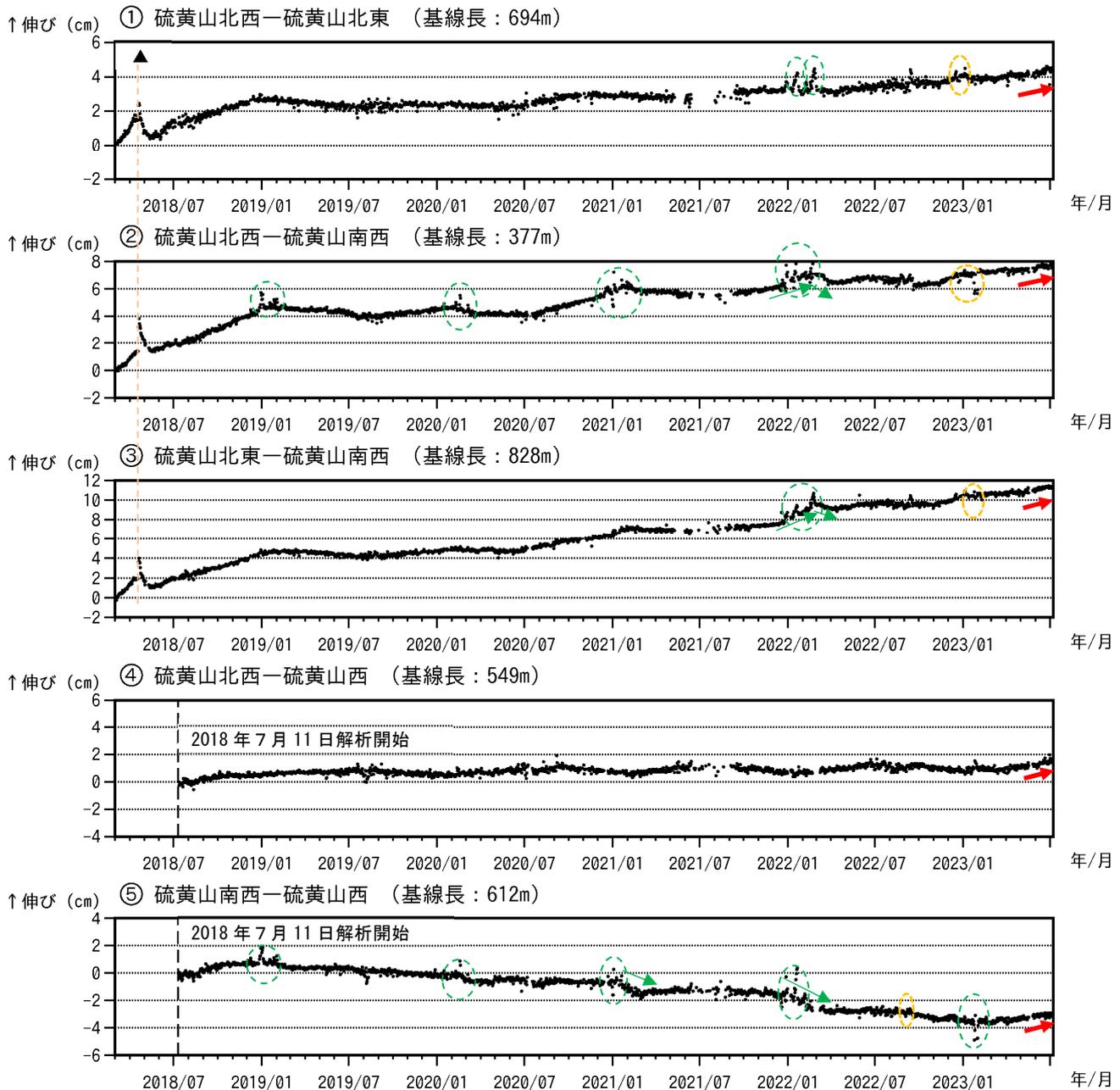


図5 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）GNSS連続観測による基線長変化
(2018年3月～2023年7月7日)

GNSS連続観測では、硫黄山近傍の基線において2023年5月頃から硫黄山の山体浅部における膨張を示すと考えられるわずかな伸びがみられています（赤矢印）。

これらの基線は図3の①～⑤に対応しています。

基線の空白部分は欠測を示しています。

緑色の破線内の変化は、地面の凍上の影響と考えられます。

橙色の破線内の変化は、台風等の気象要因の影響と考えられます。

②③⑤の基線において2021年1月及び同年12月頃から2022年3月頃にかけて認められる変化（緑矢印）は、硫黄山南西観測点の局所的な変動によるものと考えられます。

図上部の黒三角及び橙破線は、2018年4月19日及び同月26日の噴火の発生を示しています。